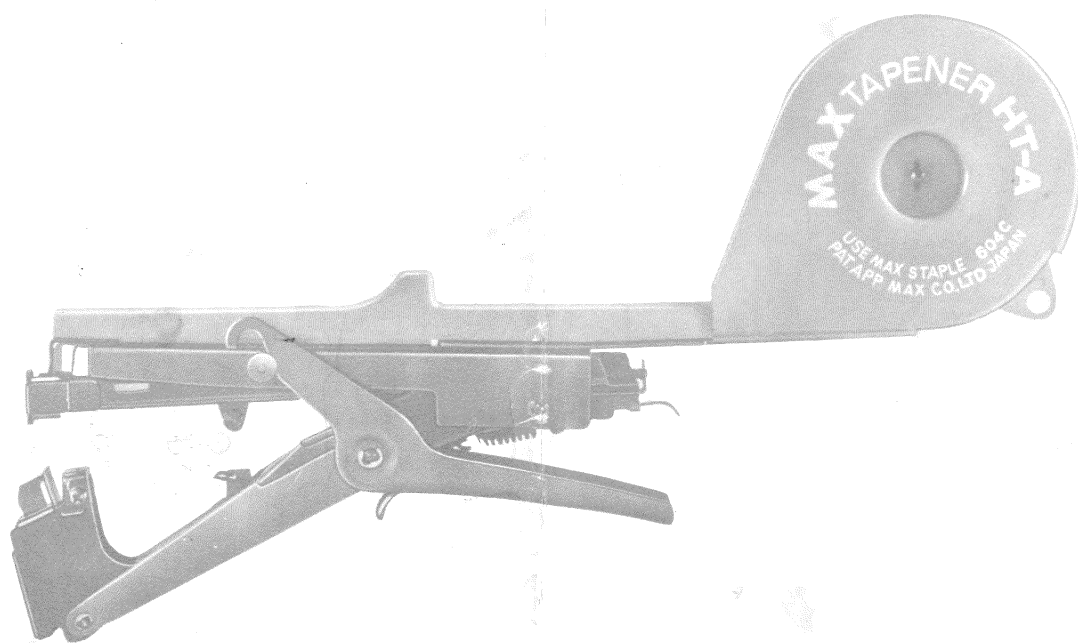


マックステーパー

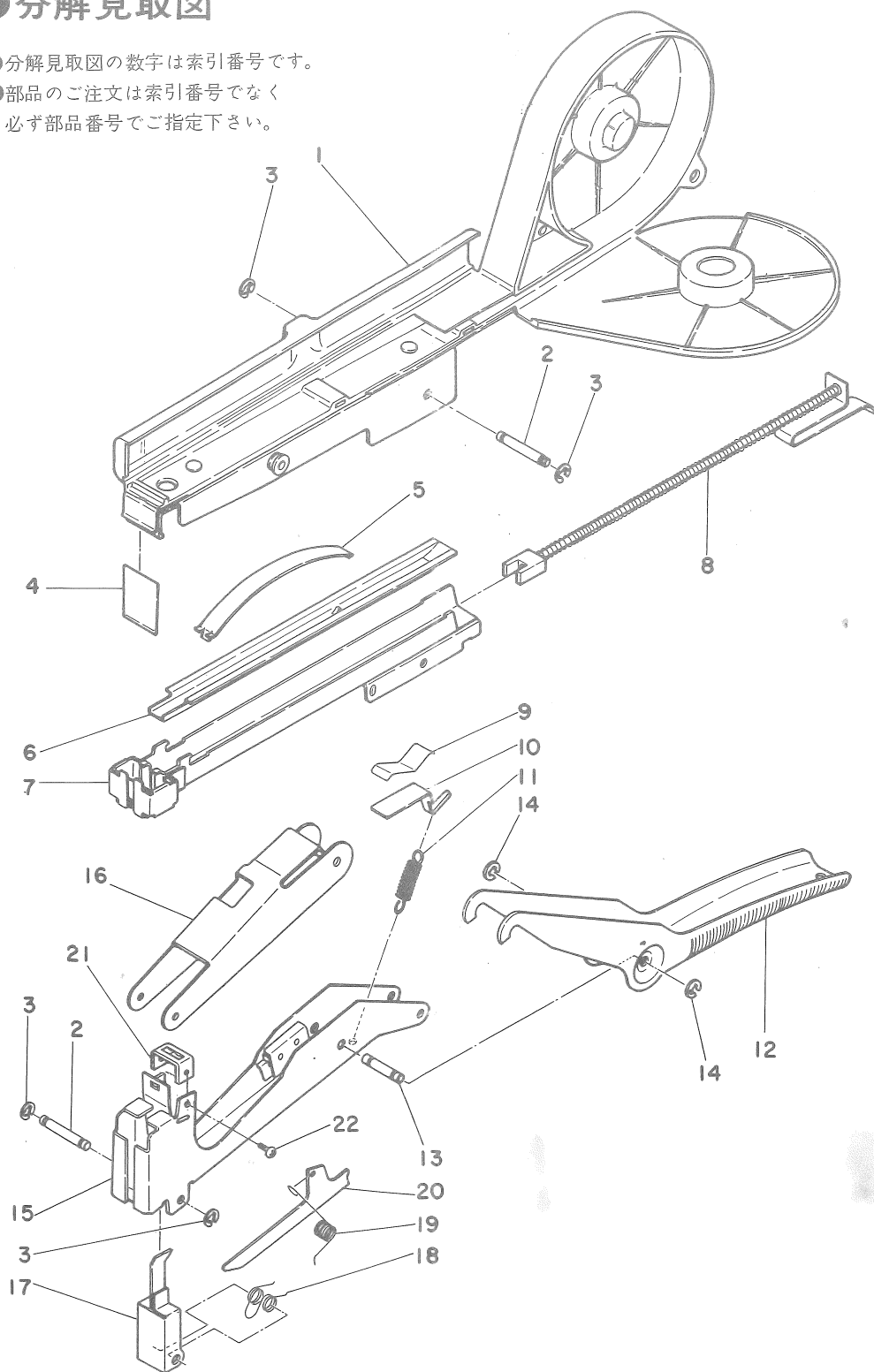
HT-A 型 取扱説明書



●分解見取図

(注) ①分解見取図の数字は索引番号です。

②部品のご注文は索引番号でなく
必ず部品番号でご指定下さい。

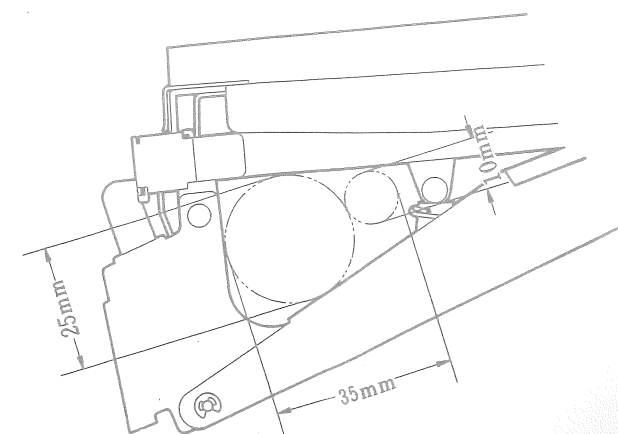


●部品名称

索引番号	部品番号	部品名	索引番号	部品番号	部品名
1	24u	ハンドルユニット	12	34	ハンドルB
2	37	ハンドルピン	13	35	大台ピン
3	23	E型止メ輪3.2	14	36	E型止メ輪3.2
4	31	カッター	15	6u	大台ユニット
5	33	ハンドルバネ	16	51	カバー
6	32	ステーブルカバー	17	20	テープ支え
7	1u	フレームユニット	18	21	テープ支えバネ
8	40u	プッシャーユニット	19	19	リターンバネ
9	45	板バネ	20	18	プッシュロッド
10	44	フック	21	7	曲台
11	38	大台バネ	22	8	十字穴付ナベ小ネジM3

●仕様

名 称	マックスステープナーHT-A
商 品 記 号	HT-A
寸 法 (高さ)×(巾)×(長さ)	130mm×26mm×335mm
使 用 ス テ ー プ ル	マックスステープナー用ステープル604C
ス テ ー プ ル 装 填 数	200本(2連)
使 用 テ ー プ	マックスステープナー用テープTAPE-10 0.1mm(厚さ)×11mm(巾)×40M(長さ)白色 マックスステープナー用テープTAPE-15 0.15mm(厚さ)×11mm(巾)×26M(長さ)青色
重 量	410g
結 束 範 囲	25φ(最大)×10φ(平行)(注)下図参照
替 刃	マックスステープナー用カッター
ス テ ー プ ル 現 寸 図	



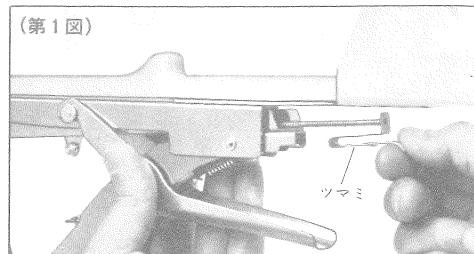
マツクステープナーHT-A型は、ホッチキスとテープを組み合わせた画期的な結束機械です。結束物をテープで巻き、ステープルで止めるという動作を自動的に行い、蔬菜、果樹、園芸の広い分野にわたり結束作業の能率を飛躍的に高め、すばらしい性能を発揮いたします。

● 使用法

■ ステープルの入れ方

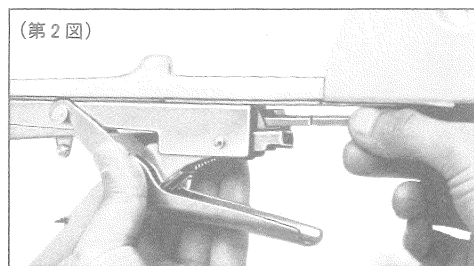
- ① 左手で本体を握り、右手でプッシャーユニットのツマミを上押し、そのまま後方へ引き出します。

(第1図参照)



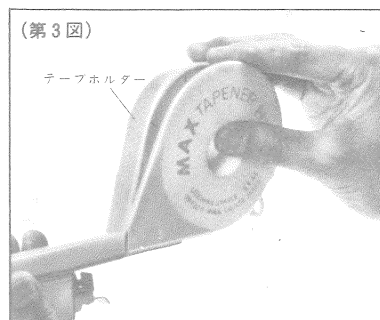
- ② 右手でステープルをつまみ、ステープル足を下にしてフレームの中に入れ、プッシャーユニットをセットします。ステープルは2連(200本)入れることができます。

(第2図参照)



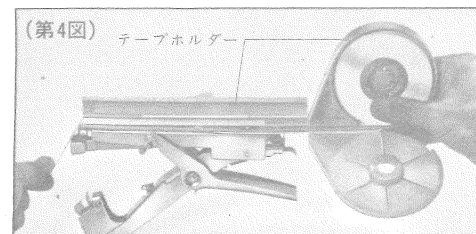
■ テープホルダーのはずし方

テープホルダーの蓋に指をかけ、親指で中央部の突起を押すようにしてはずして下さい。(第3図参照)



■ テープの入れ方

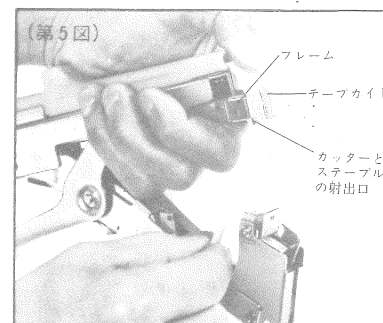
- ① テープホルダーの蓋をはずし、テープを入れ蓋を“パチン”と音がするまで閉じます。(第4図参照)



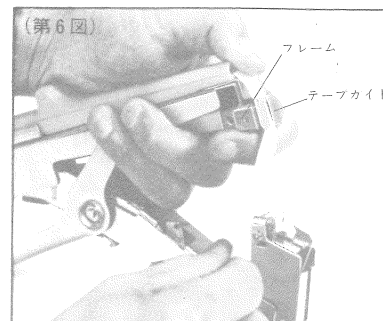
- ② 次にテープをセットします。左手親指でハンドルユニット先端部を軽く押え、右手でテープ先端を持ち、テープをテープガイドの中に入れて下方へ引きます。

(第5図参照)

(注意) テープをテープガイドに入れる際、左手人差し指でフレームの先端を押しますと、射出口より鋭利なカッター及びステープルが突き出て怪我をしますので、フレームの先端には絶対に指をあてないで下さい。(第6図参照)



(正しい指の位置)



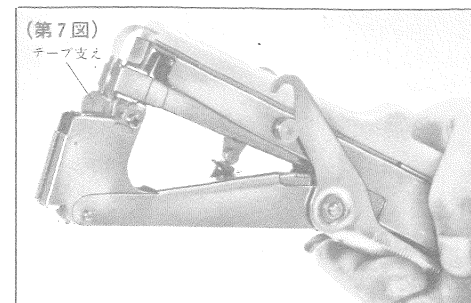
(まちがった指の位置
指を傷つけます。)

■ テープの引き出し方

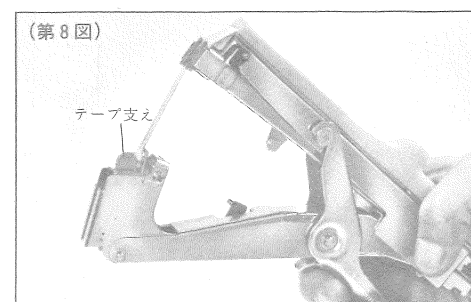
- ① ハンドルを握るとテープ支えがテープ先端を押えます。

(第7図参照)

なお、テープ支えがテープを押えた後、それ以上強くハンドルを握ると“カラ打ち”をしてしまい、テープ支えがもどってテープを押えられなくなります。



- ② その状態でハンドルをもどすと、テープが引き出されます。(第8図参照)

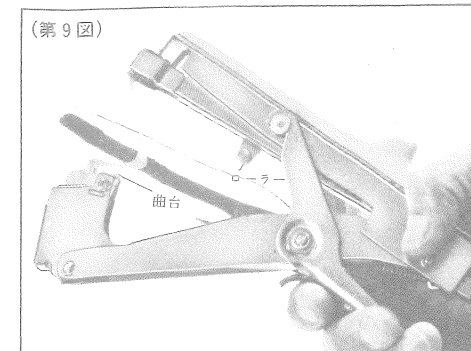


- ③ ハンドルを握ったときに、テープ支えがテープを押えない場合があります。これは本機の故障ではありません。その際には、それ以上ハンドルを強く握って“カラ打ち”をして下さい。テープ支えが正常な状態にもどります。

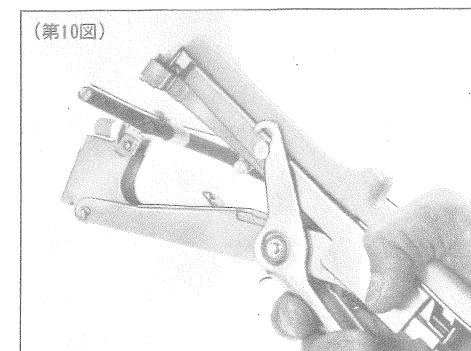
(注意) “カラ打ち”をするのは、テープ支えがテープを押えない場合にかぎります。

■ 結束方法

- ① 結束物にテープを当てがい、機械の中に入るように押し込みます。その際、曲台とローラーの間に結束物が入るようにして下さい。(第9図参照)



- ② 次にハンドルをいっぱい握りますと、結束物はテープとステープルにより結束され、同時にテープは切断されます。(第10図参照)



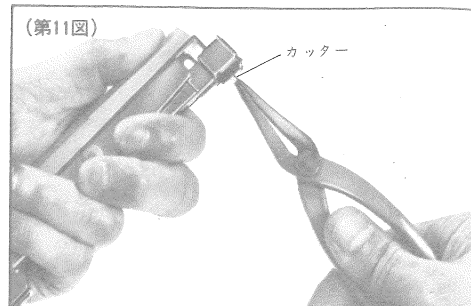
以上の手順で能率よく使用できます。

なお、テープナーご使用の際に、テープホルダーの突起穴にひもを通せば首、肩又は腕にさげて使用できます。

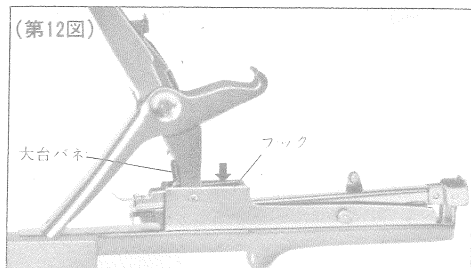
● 分解 (部品名称の前についている番号は、 分解見取図の索引番号です)

■ 主要分解方法

- ①①ハンドルユニットとフレームを左手ではさんで④カッターをペンチ又はヤットコ等で抜き取ります。
(第11図参照)



- ②⑧プッシャーユニットをはずします。
③①ハンドルユニットと⑮大台ユニットを開き、⑩フックを押すと⑪大台バネがはずれます。(第12図参照)

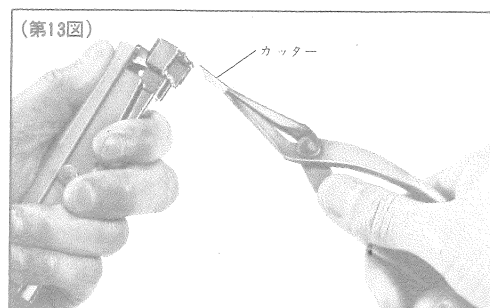


- ④①ハンドルユニットの③E型止メ輪 2.3をねじまわしではずし、プラスチックハンマー等で②ハンドルピンを抜き取りますと、①ハンドルユニット、⑤ハンドルバネ⑥ステープルカバー、⑦フレームユニット、⑨板バネ、⑩フックがはずれます。
⑤⑮大台ユニットの中央についている⑭E型止メ輪 3.2をはずし、⑬大台ピンを抜きとりますと、⑫ハンドルBがはずれます。
⑥⑮大台ユニットの③E型止メ輪 2.3をはずし、②ハンドルピンを抜き取りますと、⑮カバー、⑰テープ支え、⑱テープ支えバネがはずれます。
⑦⑮大台ユニットの⑲リターンバネをはずしますと、⑳プッシュロッドがはずれます。

● カッターの交換方法

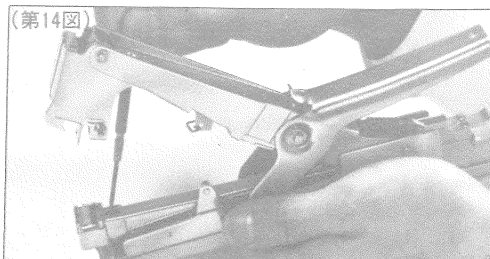
- ①カッターの耐久限度は約3万回です。耐久限度以上になりますと切れあじがにぶりテープを切断しなくなりますので、新しいカッターと交換して下さい。
②ハンドルユニット先端部とフレームを左手ではさみ、カッターをペンチ又はヤットコ等で抜き取り、新しいカッターの刃先をきずつけないように入れて下さい。

- (注意) (第13図参照)
1. カッターはカミソリ刃のように鋭利ですので、カッター交換の際は十分注意し怪我をしないように取扱下さい。
2. カッターのお取替えは、お買求めの店でマックステープナー用カッター替刃と指定してお求めください。



● ステープルづまりの直し方

- プッシャーユニットを取りはずし、針金又は小さなドライバーでつまったステープルを取り除いて下さい。
(第14図参照)



● ご注意

- ①フレームの先端にはカッター及びステープルがありますので、絶対に指をあてないで下さい。
②“カラ打ち”をしますと、ステープルづまりの原因になりますのでさけて下さい。
③機械を落したり、たたいたり、投げたりしますと性能を損うことになりますのでさけて下さい。
④テープがフレームの先端から10mm位出ている時、正常の作動をします。テープがたるんでいたり、テープ支えに切りカスが残っていると作動不良の原因になりますので、たるみを直し、切りカスを取り除いて下さい。
⑤下図の矢印に時々注油をして下さい。(第15図参照)
⑥指定されたマックスステープルおよびマックステープ以外をご使用になると機械の故障の原因となりますのでくれぐれもご注意ください。

